

名前：

昨今インターネットが発達し、それは情報
 のやりとりにおいて大変な利便性をもたらし
 ています。たとえば、従来なら行政に依頼す
 るもしくは特定の場所に足を運ばなければ得
 られなかつたような、公的な情報について、
 インターネットを用いることにより、簡単に
 アクセスできます。あるいは、以前なら毎朝
 の新聞もしくは定時のテレビ番組を待たなけ
 れば知ることのできたが、天気予報が、今
 や数秒で得ることが出来ます。この延長上に
 、新聞や雑誌に取って替わるものとしてのイ
 ンターネットの存在があるようにも、一見の
 ところ思えてしまうのは当然のことです。

しかし、行政が公開している公的な情報や、
 気象台が発表している天気予報と比べ、こ
 れまで新聞・雑誌が私事に提供してきたニ
 ュースというものには、決定的に異なる点があ
 ります。

それは、端的に言えば、「情報の価値の任
 意性」ということです。つまり、ニュースと

いうものには、どのニュースも重視するの
 か、どのニュースも読みどのニュースも読まな
 いのか、ということが常に問われ、てきます。
 そしてそれは逆に、どのニュースも提供しど
 のニュースも提供しないのか、という提供者
 側の価値判断とも表裏です。このような特徴
 は、行政が義務的かつ定形的に公開している
 情報や、自分の家の近くのものしか見るはず
 もない天気予報にはないものです。

ところで、私自身の経験も少し話します。
 インターネットでニュースを読もうと思っ
 た時、必ずぶつかる壁は、数多く表示されてい
 るヘッドラインのうち、どれから順に読んで
 いけばよいのかわからないということです。
 さらに、ニュースを読んでいる時、必ずぶつ
 かる壁は、「関連するニュース」としてリン
 クの貼られているアーカイブが実に多くあり、
 興味に従って読み進めて行くうちに拾収が
 つかなくなったことです。

さて、以上のことから私が言いたいのは、

1800字

名前:

インターネットが持っている情報の莫大さが、
逆に問題となってしまうことがあり、ニース
をインターネット上で閲覧する際、この問
題が顕著に出てしまうということです。紙上
のニースであれば、まあそもそも紙面の制
限によってニースの数は限られているので、さ
らにヘッドラインの配置によってそれだけの
ニースの重要度がわかります。目録として
読むニュースがインターネットのものとなっ
てしまえば、その無数の情報からの取捨選択
が非常に困難になります。これは時として、
選取にかたよりが出してしまうだけでなく、提
供者のかたよった報道に知らずのうちにハマ
ってしまう結果ともなります。

余りに多くの情報を持つインターネットは、
ニースの報道に適さないのです。